

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



公開研に「雪の女王」がやってきた？

「♪ありのままでありのまゝの姿見せるのよ♪」

「アナと雪の女王」の公開研の当日、二〇〇名近いお客様に混じって、朝から雨交じりのお天気でしたが、保育が始まると次第に風を伴った雪に変わっていきましました。それを見た子どもたちは「きゅん」という絶叫があちこちで上がり、園庭や中庭に飛び出して、濡れるのも構わず走り回ると、少し眺めてまた自分の室内遊びに戻るマイペース組と、まさに子どもたちの「ありのままの姿」でした。その「雪」について話をする子どもたちの姿には、幼児期の学びの特徴がとて出していました。また、「雪」という環境一つが子どもにも与える刺激の強さを改めて実感しました。予期せぬ「雪の女王」の訪問でしたが、子どもたちは勿論、参観者の皆さんには、むしろ歓迎されたようです。子どもたちの「ありのままの姿」にも、臨機応変に対応する先生方の動きや判断には、日頃の保育への姿勢や保育観がよく見えて、とてもよい勉強になったとの感想を頂きました。保護者・役員や駐車場の係りとして、外でお手伝い下さった下さり本当に有難うございました。保護者の皆様のご協力無くしては公開研はできません。改めてお礼申し上げます。子どもたちには相変らず「♪すくすくしも寒くないわ！」とばかりに、元気に遊んでいます。



雪だ～！年中の子どもたち



年長学年の分科会①



年少学年の分科会②

「福お～内！鬼お～外！」今年もかわいい鬼たちが大集合！

伝言板

環境が人を育てると言いますが、四季が明確な日本の自然に起因する季節への細やかな感受性は、日本に生まれ育っていく過程で身についていくものだと思います。ですから、幼児教育の現場では、そういった季節毎の行事をとて大事にしています。（幼稚園に来て改めて新鮮に感じました！）

節分は4つの季節の変わり目（立春、立夏、立秋、立冬の各前日）を指し、本来は年に4回あるものだそうですね。2月の節分には豆をまきますが、これは、昔京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っていることや、「魔の目（魔目＝まめ）に豆を投げつけて魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。

幼稚園の行事としては、「自分の中の鬼を追い払う」という動機付けをすることが多いようです。「おかしいっぱい食べたい鬼」「お野菜すききらい鬼」「すぐ泣いちゃう鬼」等々、「自己分析力」が必要？なハイレベルな内容だとも言えますが、子どもはいたって単純に、豆をまくことや鬼を追い払うことを目標楽しんでるようでした。

ところで、「私の中の鬼」は何だろうか？・・・考えたくもあり、考えたくもなし。いや、この際ちゃんと考えて、しっかり追い払う努力はいたしましょうか。



◎園だより、園長便り、各種依頼文書等による園からのお願いは、内容や意図を家族内でしっかりシェアして下さい。

気になったのは、例えば交通上マナー等をお願いをした時です。実際に送迎される方に意図がしっかりと伝わっていませんでした。子どもも命にかかわる大切な内容です。他にも学年毎のお願い等について、子育てに関わる家族全員でしっかり情報共有して頂けますようお願いいたします！